

## 特定非営利活動法人「フォレストサイクル元樹」平成28年度総会議事録

1. 日 時 平成28年7月10日(日) 14時～16時30分

2. 場 所 間伐材工房 元樹

3. 出席者数 12名(内委任状8名) 会員の1/2以上となり成立した。

4. 配布資料

① 平成28年度総会次第

② フォレストサイクル元樹「平成27年度決算報告書」(案)

③ 平成28年度事業計画書(案)

④ 平成28年度(次年度)特定非営利活動に係る事業会計収支予算書(案)

⑤ 「フォレストサイクル元樹」パンフレット

⑥ 「学校の森子どもサミット」パンフレット

5. 審議事項

事案第1号 平成27年度事業報告及び収支決算報告(承認)

事案第2号 平成28年度事業計画及び収支予算(承認)

事案第3号 任期満了に伴う役員任期更新の件(承認)

事案第4号 本年度の活動と事業について(協議・承認)

6. 議事経過の概要及び議決の結果

開会の言葉 理事 星野政博

挨拶 山・村森 理事長 蛇口昌俊

平成28年度総会となります。活動への会員の参加が、限られたメンバーで且つ参加頻度も少ない為、間伐材工房元樹スタッフ・役員を中心に進んでいるのが現状である。本日平成28年度総会で今後の事業展開を図りたいので、審議の程よろしくをお願いします。

議長選出

定款に沿って、理事長である蛇口昌俊が議長を努める事を宣し、議長は理事会成立の要件を満たしていることを出席者に説明し会議成立を宣言した。

議事録署名人の選出

議長より、本日の議事の経過を議事録にまとめるに当たり、議事録署名人2名を選任したい旨を諮った結果、村上智彦と辻博之の2名が満場一致で選任された。

書記の選出は、星野政博が選出された。

審 議

事案第1号 平成27年度事業報告及び収支決算報告(承認)

議長より、配布資料②に基づき、H27年度の事業・決算報告の経過報告がなされた。

下記の質疑応答・審議後、満場一致で承認された。

① いかに事業を継続していくかの議論がなされた。

② 活動を継続していくための非営利の収益についての協議をした。

③ 収益改善策として、前回の理事会で承認された理事長の報酬額変更について報告がなされた。行政機関への相談を含め全員の理解が得られた。

今後の事業展開を含め、総会資料として確認された。

平成27年度決算については、平成27年度決算は前年に続きマイナスで、単年にて600



万円強の損益を計上する結果となりました。平成 24 年 11 月に「間伐材工房 元樹」を立上げ後、スタッフ給料や社会保険料等人件費関連及び、工房家賃や水道光熱費等固定費だけで年間約 1,100 万円の支出の影響で、3 期連続で赤字を計上する結果となり、累積赤字も増加しております。今まで役員借入金にて何とか補填してきましたが返済目処もなく、組織として先行き不安な状態が継続しております。そのような事情にて、工房立ち上げ時からお手伝いをさせていただいていたパートの方も、契約満了に伴い雇用継続を断念し、現在はフルタイム（理事を含む）正規職員 3 名のスタッフにて全体の活動を支えています。活動当初から、助成金や補助金に頼らない組織運営を目指し、活動理念に基づいた自主事業の確立を目指してチャレンジしてきましたが、工房立ち上げ 2 年目からは「自転車で坂道を漕ぎ続ける」例えの如く、来月からの活動を継続できない状況を何度も乗り越えて今日に至っております。

また、前年対比の損益拡大要因として、助成金収入も 26 年度 387 万に対し 27 年度は 215 万円と 45%減っている事と、事業収益が 26 年度 666 万円に対し 27 年度 572 万円と前年対比 14%減っている事に加え、28 年 3 月に認定された業務改善助成金を活用しての数種類の機械設備購入資金約 100 万円の先払い分が影響しており、助成金収入減額分と設備購入分を除くと前年度とほぼ同じ損益水準になります。27 年度も、工房運営固定費や活動経費をまかなえるだけの安定収益の確保には至っていませんが、工房設備を有効に使った家具製作やノベルティー製品の大口受注、木材加工の受注等単発ではありますが、今後に繋がる受注を獲得できたことは大きな収穫です。

森林整備保全事業については、平成 25 年度からスタートした林野庁「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」事業は 3 年目を迎え、特に南三陸町の杉林においては、小規模自伐循環型林業確立を目指した素材生産と連動させながら、施行方法や作業工程の、安全を担保しながら如何に効率を上げられるかを実践にて試行錯誤を繰り返しながら、考えられる高いレベルをほぼ確立出来るまでに至りました。素材の出荷だけでなく、小径木等の林地残材の活用も前に進みはじめました。平成 27 年度は素材生産だけで材積 88.85 m<sup>3</sup>出荷し 1,118 千円の売上を計上、集材作業の難易度が高まり収益こそ出さず事ではできませんでしたが、労務費を含めた経費の確保はクリアしました。素材出荷の売り上げ以外でも、小径木の園庭資材として 10t 車 1 台分の販売や、いぐね伐採の売り上げ等前年を大きく上回る成果を出す事ができました。

本格的な森林施行を始めてから丸 3 年が経過しました。私たちの様な NPO が実施出来るレベルの限界や作業コスト・収益確保の為の要件等林業全体の現状が概ね理解できるようになり、私たちの装備や人員で今のままやっていたのでは、そう遅くない時期に継続が困難になる事が明確になりました。法人が目指す、“木を使う人を増やす事”で「小径木等林地残材の活用」を図る事こそが、小規模自伐循環型林業には必要であると確信しています。

「間伐材工房 元樹」の運営については、工房が稼働してから 3 期目の年となりました。昨年までに比べ、工房で使うスライドソーを中心とした各種工作機械や電動工具の操作を含め、製作品の精度やクオリティーも確実に向上してきました。今まで開発してきた各種木工品に加え、収益の柱となりうる新たな商品を模索しながらサンプル品を製作しては幼保施設等で評価や反応の確認を繰り返した 1 年でした。他者との差別化や活動全体へのプラスを期待して認証取得した環境省「カーボン・オフセット」や農水省「総合化事業計画(六次産業化)」は正直期待はずれでしたが、唯一昨年 7 月に実施したホームページの大幅リニューアルは、



「カーボン・オフセット」認証の補助事業として、一切のコスト負担なしでプロのデザイナーに依頼して一新を図ったもので、評判も大変良く、デザイン・内容とも素晴らしい出来栄に仕上がったと自負しております。同時に製作した、活動紹介パンフレットもHP同様満足行くものができました。

27年度も工房で製作した様々な木工品の販売は、イベントやマルシェ、ワークショップ開催の際に展示し来場者に直接販売するのと、幼稚園や保育園を訪問した際に紹介して販売する従来通りの形態に留まっており、販売量の大幅なアップは難しいのが現状です。ただHPリニューアル後は、工房で製作している間伐材加工品に加え、一般の方や民間事業者からの様々な問い合わせも増えてきました。内容的には、出前講座の開催相談や薪ストーブ、オーダー品の製作相談等様々です。全ての問合せがその先に繋がったわけではありませんが、HPが多くの人達に見られている事を実感しました。

工房で製作している木工品の多くは、今まで同様幼保施設の先生やそこに通うお母さんたちからの意見や相談・要望をヒントに製作してきました。昨年度は、仙台市の向山認定こども園で数十年間毎年12月に開催されている「キリストこども市」で、作品を販売するお母さんグループの打合せにオブザーバーとして参加し意見交換する機会にも恵まれ、生の声を聞けると共に、枝や丸太の輪切り等お店では買えない様なものへのニーズがある事もわかり、材料としての丸太や枝のオーダーに繋がりました。上記こども園では、園舎新築に伴って可動棚50台の大口発注も、県産の間伐材を使用する条件で当会に依頼していただき、年初早々に納品する事ができました。

また、本年1月に河北ウィークリー県北版にて、工房を中心とした当会の活動を取上げてもらい、その後近隣を中心に多くの問合せが寄せられ製品の販売にも繋がりました。併せて、1月にHPを見た千葉県のプロパンガス販売の事業所から、大口のノベルティー製作の相談があり、試作品製作は年度内に完了し、正式な大口受注を受けられる事が確実となりました。同時に、一般流通形態での販売を見越した自社の新たな商品として、「森の貯金箱」を開発し、パッケージデザインの製作・パッケージ試作品製作までを完了し、販売先を探すのみまでこぎ着けました。そして年度終了ギリギリの3月には、スタッフ1名の最低賃金アップを前提とした助成金申請が採択され、バンドソーやフライス盤・トリマーテーブル・レーザー加工機・移動式集塵機の新たな機械設備を導入する事ができ、今後工房作業における加工の幅が拡大すると同時に、より効率的で精度の高い作業ができる様になりました。

平成27年度も出来なかった今後の大きな課題は、如何に効果的なPRや情報発信ができるか、新たな販路、継続性のある受注に繋がる販路の開拓です。

薪ストーブ普及活動については、平成27年度の設置はゼロに終わった。幼保施設や個人のお客様からの導入相談は複数あったが、設置までは至らなかった。27年度の活動として、2回の薪ストーブセミナー(仙台市内)や新緑祭でのデモ展示を実施し、導入ニーズがある事は実感。一番大きな反響があったのは、本年1月に仙台市中心部の勾当台公園で開催した「薪ストーブ・ペレットストーブフェスタ」で、当会ブースには200名を超える人が来場し、薪割り体験も順番待ちが出るほどの盛況であった。薪ストーブに対する関心の高さ・ニーズがある事と同時に、薪ストーブユーザーが薪の調達に苦勞している事も判った。今後如何に当会の針葉樹も炊ける「夢ストーブ元樹」の導入に繋げるか、広報を含め課題として残った。

**事案第2号** 平成28年度事業計画及び収支予算(承認)



議長より、資料③④につき説明があり、満場一致で承認された。

- ① 伐材加工品の商品化に向けての各種取り組み状況が報告された。
- ② 環境省の補助事業・CO2削減の内容で本事業の認証により、HPの大幅リニューアルを外部発注できた。良い事を、良いものを作っても、多くの人に知られなければ活動の継続は困難になる。

### 事案第3号 任期満了に伴う役員任期更新の件 (承認)

次年度も現体制で継続されることが、満場一致で確認された。

### 事案第4号 本年度の活動と事業について (協議・承認)

議長より、下記事項につき説明があり、満場一致で承認された。

- ① 初めに、配布資料④⑤⑥に関する説明があり、満場一致で承認された。
- ② 地球環境基金の申請は継続するのか質問があり、自伐林業・循環型林業の確立を目指し進める。
- ③ メール等の迅速性が問われる為今後もHPの整備が必要である。
- ④ 平成27年度の工房での販売につき報告があった。事業収益としては、1.6倍となった。

### その他、懸案事項について

- ① 東北職業能力開発大学校との共同研究は、「間伐材の製品化試作、リノベーション2016」として前回理事会で、結果報告された。今後アンケート依頼あり。
- ② 継続して端材等の活用について検討していくこととした。貯金箱の製品化確定。今後も、フォトフレーム・時計・名刺立て・フラワーボックス・鉛筆立て・・・
- ③ 「木の缶詰」についての試作および販路の検討が必要である。
- ③ 活動7年目に入り、現在の会員は 14名(内役員4名)である。

### 閉会のことば 星野理事

平成28年度の活動についても、会員皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成28年 7月10日

議長 堀口昌俊 

議事録署名人 木下智彦 

議事録署名人 辻博之 